

札幌版次世代住宅に関する調査 集計結果

1 調査目的

札幌市内における札幌版次世代住宅の普及状況や普及に向けた課題を把握し、今後の普及促進策の検討資料とします。

2 調査対象期間

2021 年度（2021 年 4 月～2022 年 3 月）

3 調査対象・調査形式

以下のいずれかに該当する 153 社を対象としたアンケート形式とします。

- ・ 2021 年度に札幌市にて戸建て住宅の確認申請を 5 棟以上行った事業者
- ・ 2021 年度に札幌版次世代住宅性能評価を申請した事業者

4 調査実施期間

2022 年 7 月 8 日～2022 年 7 月 27 日

5 調査内容

- ・ 事業者が設計する新築戸建て住宅の省エネ性能や気密性能について
- ・ 札幌版次世代住宅について
- ・ 既存住宅の断熱性能について

6 回収結果

- ・ 回答数：52 社（回収率 34.0%）
- ・ 着工件数換算の回答数：1,715 戸
（2021 年度の確認申請戸数：4,676 戸に対する 調査対象戸数の割合 36.7%）

7 調査結果について

回答のあった事業者が新築した戸建住宅の中で、札幌版次世代住宅基準「ベーシックレベル」相当（ U_A 値 0.36）以上の断熱性能を持つ住宅は、58.8%と前回調査（59.7%）と同程度でした。このうち「スタンダードレベル」相当（ U_A 値 0.28）以上の住宅も、40.7%と前回調査（39.1%）と同程度でした。

なお、本調査は、事業者の回答を集計したものであることから、本市全体の実績を示しているものではありません。

※（参考）直近 5 年の調査結果

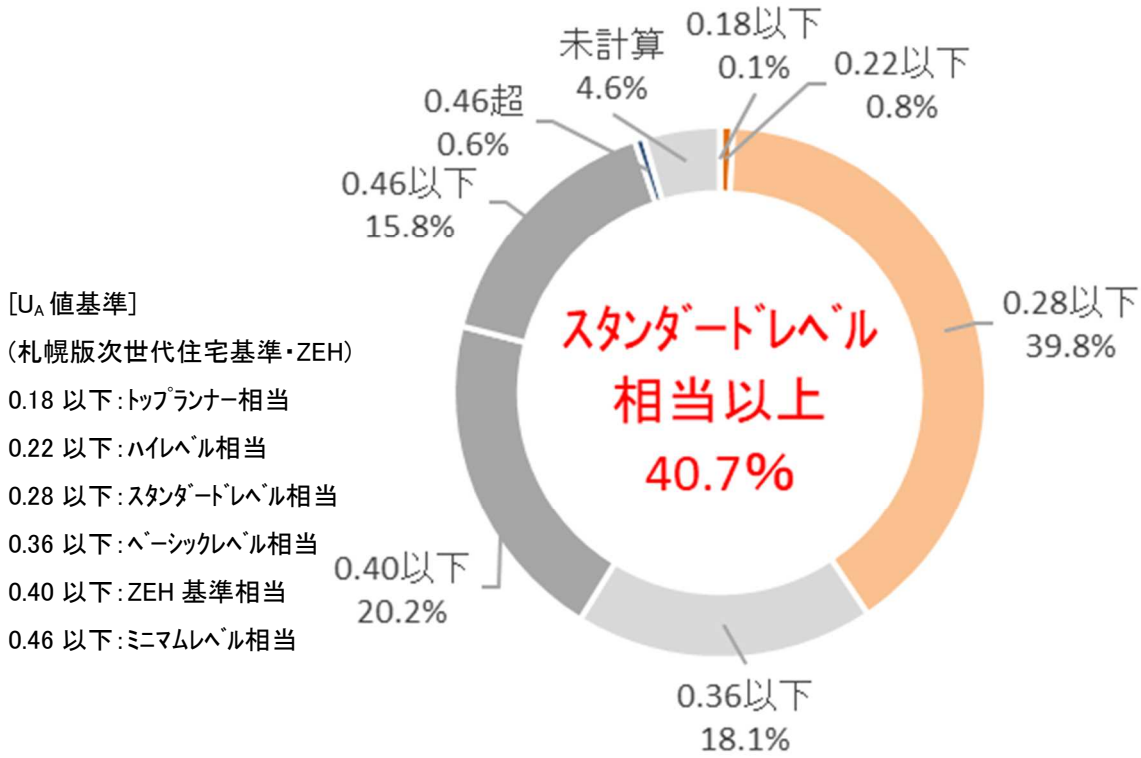
	2018 2017 年度分	2019 2018 年度分	2020 2019 年度分	2021 2020 年度分	2022(今回) 2021 年度分
スタンダードレベル相当以上	33.2%	20.3%	29.4%	39.1%	40.7%
ベーシックレベル相当以上	45.1%	43.3%	47.3%	59.7%	58.8%

※端数処理(小数点第二位以下四捨五入)の関係上、構成比(%)の計が100%とならない場合があります。

新築戸建て住宅の省エネ性能について

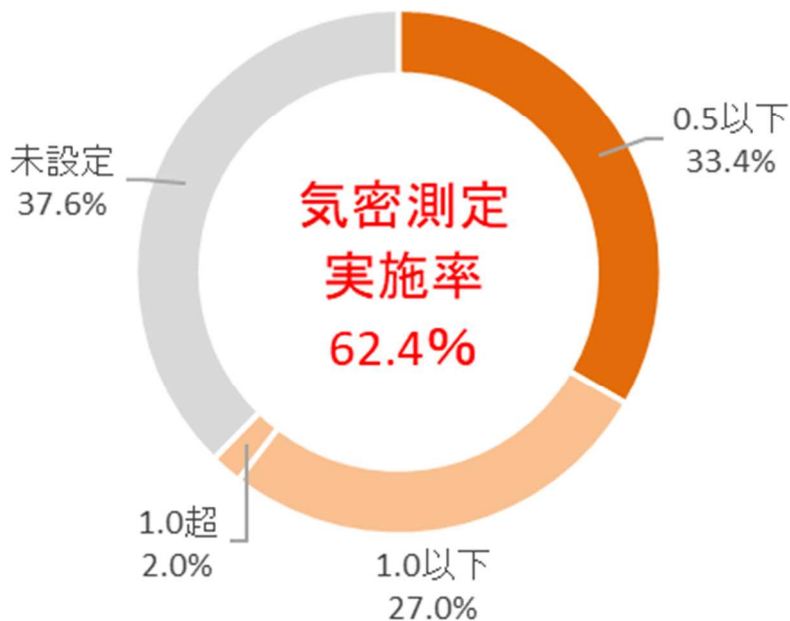
<2021 年度に着工した戸建住宅の性能(実績戸数)>

○外皮平均熱貫流率(U_A値)のおおよその内訳



(N=1,715)

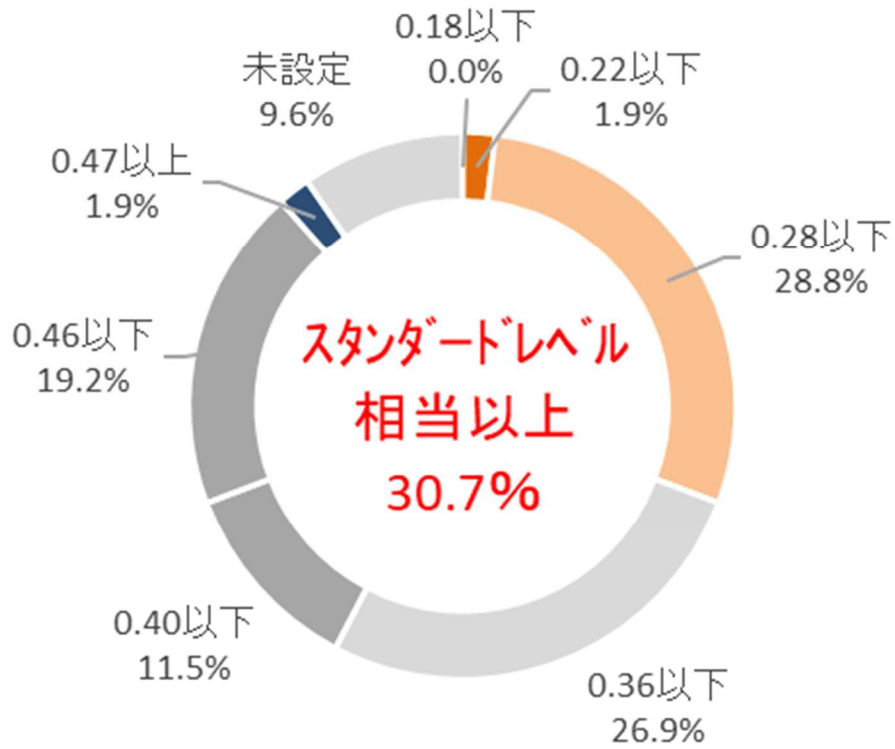
○相当隙間面積(C値)のおおよその内訳



(N=1,276)

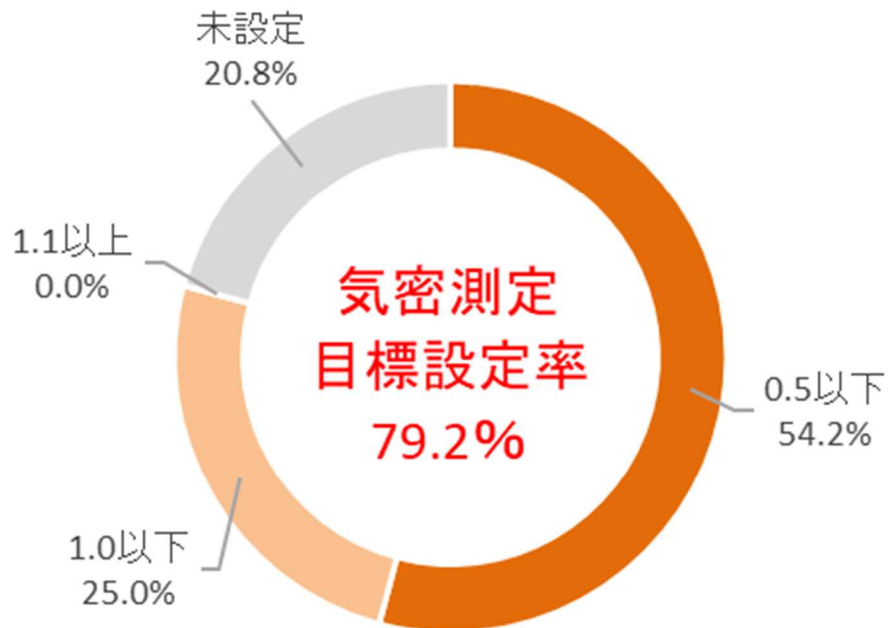
<標準仕様としている住宅の性能>

○外皮平均熱貫流率（U_A値）の内訳



(N=52)

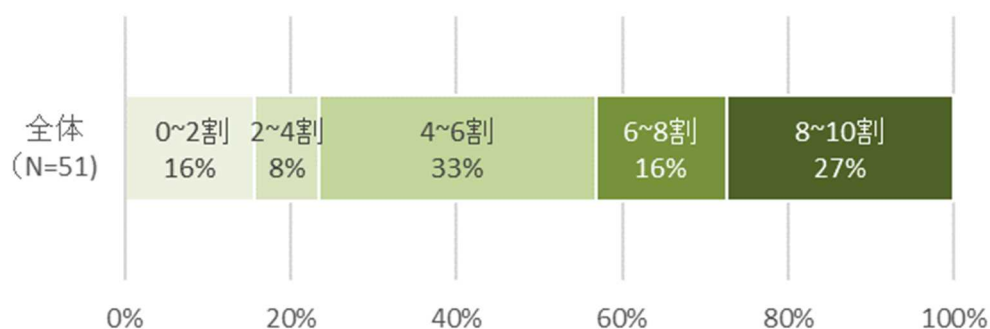
○相当隙間面積（C値）の内訳



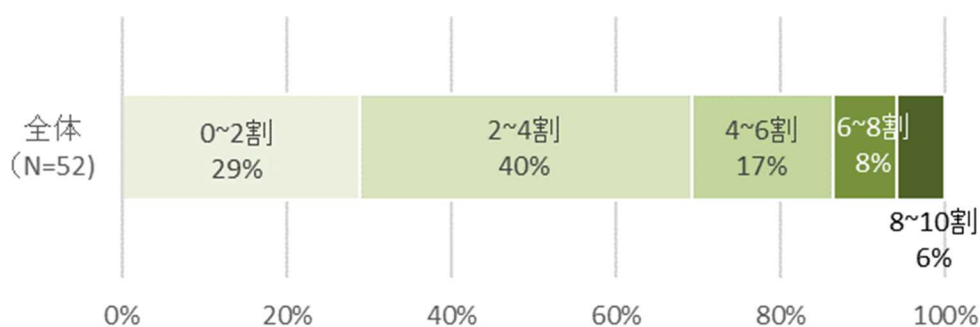
(N=48)

札幌版次世代住宅について

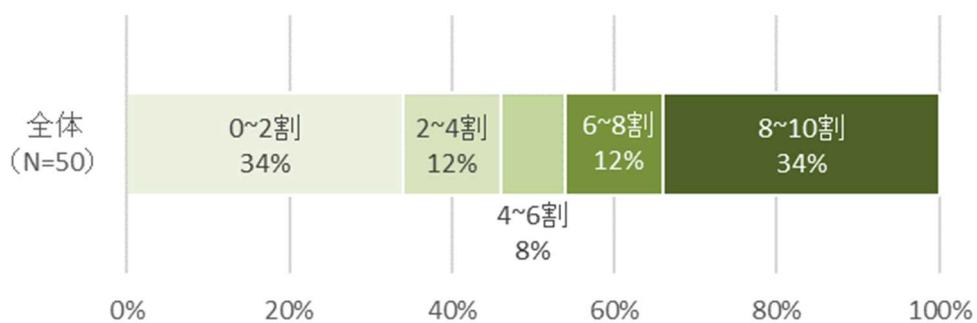
○従業員の札幌版次世代住宅の認知度



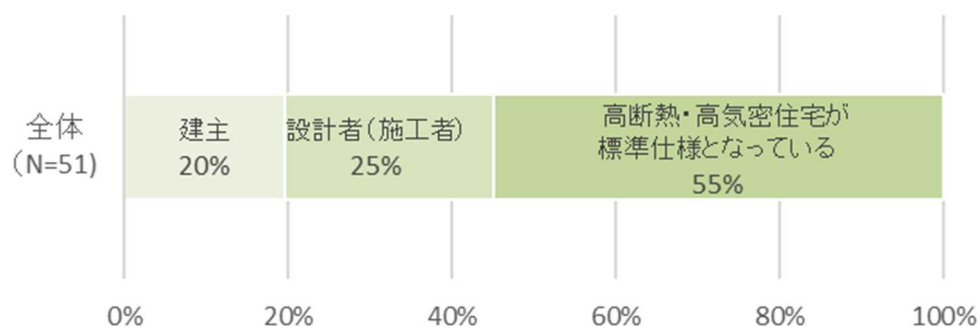
○建主・買主の札幌版次世代住宅の認知度



○建主・買主の高断熱住宅（ U_A 値 0.36 以下）の希望度



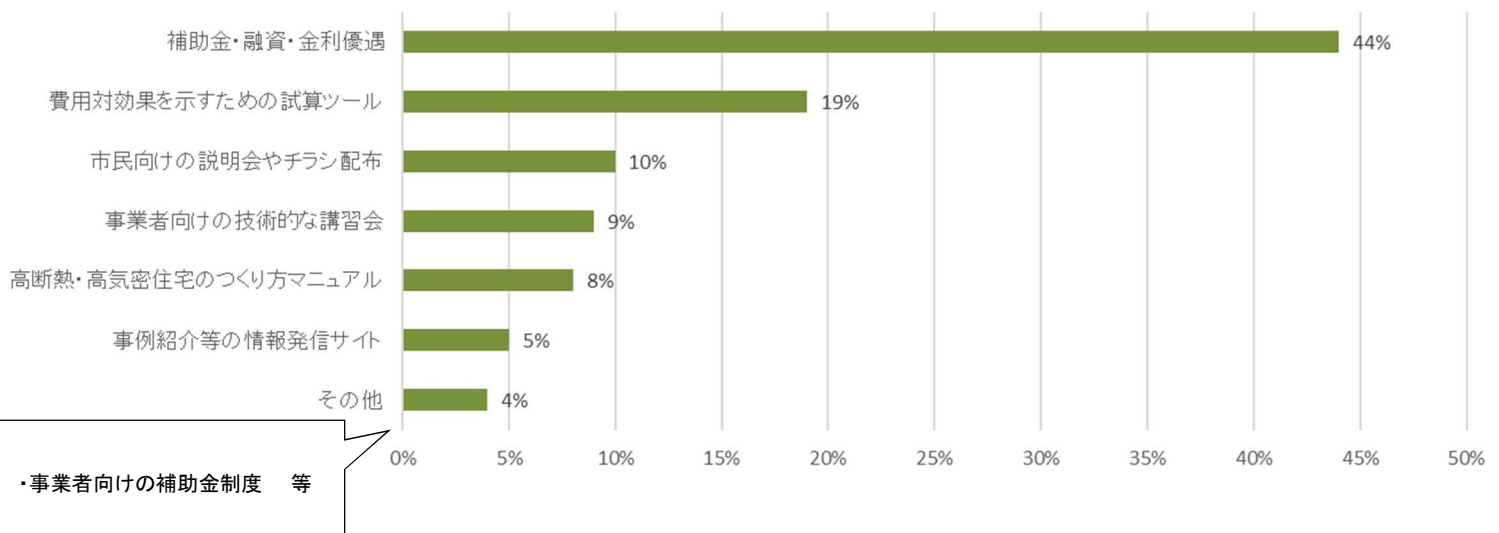
○高断熱住宅（ U_A 値 0.36 以下）を建築する場合の提案元



○断熱性能（外皮平均熱貫流率：U_A 値(W/(m²・K))）レベル別の坪単価平均

U _A 値 (W/(m ² ・K))	0.18 以下 (トップランナー 相当)	0.22 以下 (ハイレベル 相当)	0.28 以下 (スタンダード レベル相当)	0.36 以下 (ベーシック レベル相当)	0.40 以下 (ZEH 基準相当)	0.46 以下 (省エネ基準 相当)
坪単価	103 万円/坪	94 万円/坪	78 万円/坪	75 万円/坪	73 万円/坪	73 万円/坪
最大	150 万円/坪	135 万円/坪	100 万円/坪	100 万円/坪	100 万円/坪	120 万円/坪
最小	70 万円/坪	75 万円/坪	55 万円/坪	54 万円/坪	55 万円/坪	45 万円/坪
回答数	(N=10)	(N=12)	(N=22)	(N=21)	(N=12)	(N=15)

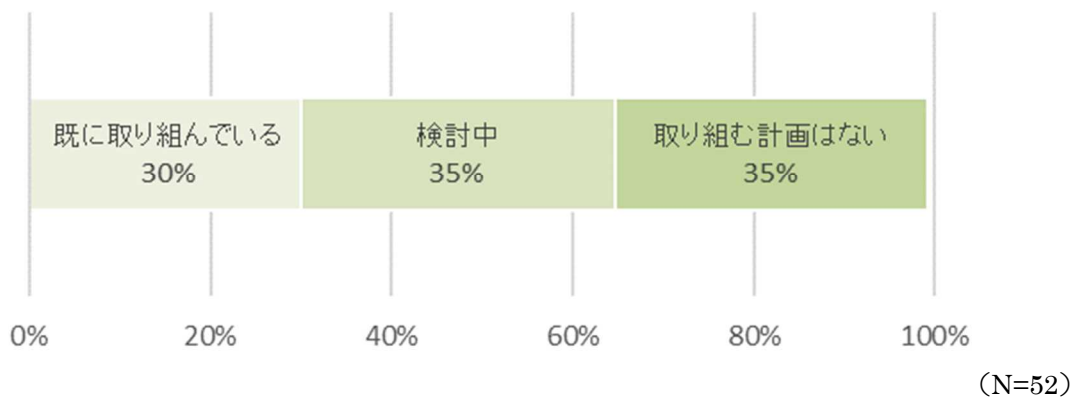
○高断熱・高気密住宅が普及するために必要な支援策



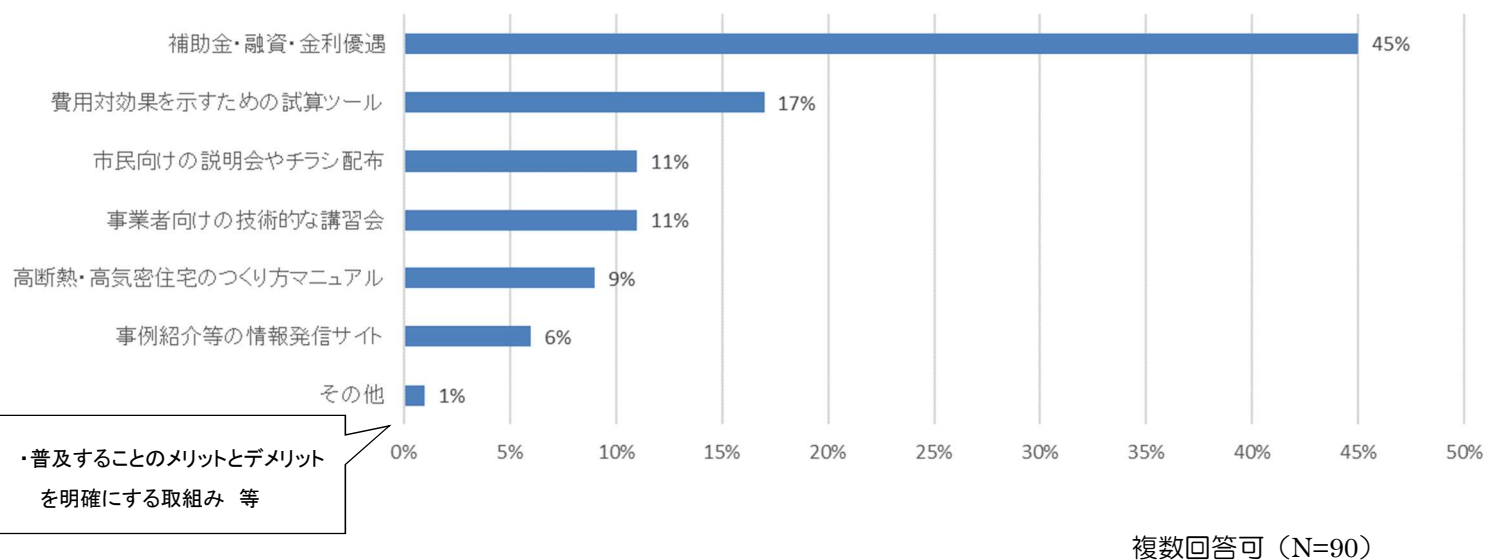
複数回答可 (N=99)

既存住宅の断熱改修について

○既存住宅の断熱改修事業への取組み状況



○既存住宅の断熱改修が普及するために必要な支援策



○札幌版次世代住宅全般に対する自由意見

札幌版次世代住宅基準に関するご意見

- スタンダードレベル以上の U_A 値は、コスト面と納まりの面でハードルが高く感じる。
- 鉄筋コンクリート造において、 C 値と一次エネルギー消費量はクリアしやすいが、外皮については、内側の断熱材の厚みを増やす必要があり、居室面積が少なくなるため、基準を満たす仕様にしづらい。鉄筋コンクリート造の建物で基準を満たすコツ等があれば知りたい。

補助制度に関するご意見

- 補助金は結構考えていただいているが、申請が面倒である。断熱材を何ミリ、窓はトリプル、フローリングは何ミリ等のように仕様規定で補助金を出してほしい。
- 年度毎に変わる補助金制度に不便さがある。通年で申請できるような仕組みにしてほしい。
- 申請手続きを簡略化してほしい。
- 申請代行機関があれば積極的に取り組みたい。
- 申請に時間がかかり、着工に影響するので、申請日数を短くするか、着工のタイミングを早くしてほしい。現状の制度では、施工側にメリットを感じない。
- 申請は全て建築会社が行うので、採択通知等は建主本人ではなく、建築会社に送付してほしい。
- 完了報告の写真提出は、必要最低限の箇所にしてほしい。出荷証明書で問題ない箇所について、現場の進捗に合わせて撮影が必要になり、施工店にも補助金がほしいくらい手間がかかる。
- 長期にわたって、補助事業を続けてください。
- ハイレベル、スタンダードレベルの2等級への補助のみで良い。
- スタンダードレベル、ベーシックレベルの補助の枠を増やしてほしい。
- 予算をもっと多くしていただきたい。